

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 8 年 7 月 7 日

東員町議会 議長

三宅耕三様

東員町議会

山田由紀子 (印)

研 修 報 告 書

研修期間	令和 8 年 7 月 2 日 (木) ～ 7 月 3 日 (金) 【 2日間】
研修（視察）先	会津若松市役所
目的（テーマ等）	・ 議会改革について（通年議会） ・ 議員間討議について
特記事項	

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

様式 1【申し合わせ事項】：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名：山田由紀子 〕

研修概要

会津若松市役所にて 市議会議員 清川雅史 議長より

- ・議会改革について（通年議会）
- ・議員間討議についての研修を受けた。

内容

3部の事前資料の提示あり持参。

当日は、別途議会プロフィールと、予算決算委員会第1分科会抽出論点表、その他広報誌等も用意され、事前提出の質問事項も盛り込まれ行われた。

所感

議会改革については、大きな要素として、「合併が4度行われている。」との点である。現在の状況になるまで、多くのプロセスを踏まれたことは想像に絶するし、起点となっていることは言うまでもない。

清川議長は、住民の負託に答える合議体たる議会である事に現在もブレはないとしている。

議員定数は、平成16年61名より→57名→30名の状況をとらえてみても、所謂に、議会改革状況となったはずで、自ずと、議員方は議会に足を運び、それぞれに降りかかった試練、思惑も渦巻いたと考える。今国会の定数削減法案の成立は「どの目線での論議なのか？」と、反対するのは？国民の多くが感じる状況も重なった。ただし、会津若松市議がたは、それぞれの立場で、侃侃諤諤の論争を繰り広げたことも理解する。それぞれの地区からの代表→地方の政治は小さくなればなるほど明確になる。待ったなしの状況は、繰り返しになるが、「通年議会状況であった」若しくはそれ以上の論議・会議が繰り返されていたと考える。しいて言えば、無情のすり合わせが行われることは、多くの課題解決も進み、行政改革も勿論進んだと思われる。

清川議長は、4年目の通年議会について、高く評価し会派の存在は、大いに活発な活動中心となり、行政サービスの向上に尽力している認識であった。特別議会事務局職員の配置が多いわけではないと発言され、民意を聞き取る計画的な時間配分などは、東員町議会としても見習うべき点ではないか。

予算決算委員会第1分科会抽出論点表からも、相当な資料確認も含めてハイレベルな施策に対する見識があると感じ、自身としてはより自己研鑽に尽きると感じている。個人的には、視察研修も含めて、DX化が叫ばれている中で、オンライン対応など、欠席の議員が生じないように学びの統一性を持たせて、東員町議会のブラッシュアップも試みるべきと考えている。東員町は、行政も含めて、住民に寄り添った議会運営になっているのかを問われていると感じる。